

発行日 2010.3.6

編集発行人 重富克彦

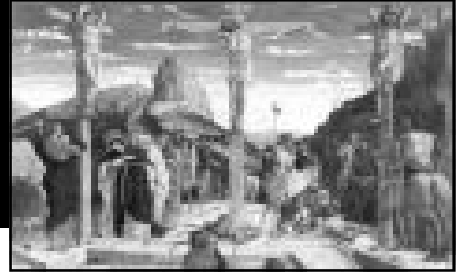
時は縮まっている。

1Cor7:21

Kairos

事務所所在地 064-0912 札幌市中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

身代わりの罰



身代わりによって人が救われるということがあるだろうか。たとえば、一人の青年が道を誤って強盗殺人の罪を犯した。取り返しがつかない事態だ。しかし父親が、自分が犯人だと名乗り出、裁判を受け、死刑が確定した。

おかげでその青年は、いっさい罪を問われることなく、普通に仕事につき、結婚し、家庭を作る。青年は幸せに暮らせるだろうか。時折、良心がちくりと痛むぐらいで、何事もなく生涯を全うできるだろうか。自分のために犠牲になってくれた父に感謝をしながら、その恩に報いようと、誠実に生きられるだろうか。

愛による身代わりをテーマにしたドラマは、時折、テレビドラマにも見られるが、多くの場合、間違っただけの愛情の表現として、結局は、名刑事によって、そのからくりが見破られることになる。

たしかに現実には親を身代わりにして自分が助かったとしても、決して平安には生きられないだろうと思う。むしろ、魂の奥の痛みを忘れるために、ますます心の破綻を来して行くのではないだろうか。

ところで、わたしたちキリスト者は、イエス・キリストの身代わりによって、罪を贖われ、救われたと信じている。そして体験的にも、自分のためにイエス・キリストが命を与えてくださったので、救われたという実感も与えられている。それが原点で、わたしも今日まで来ているし、牧師という務めを喜んで負ってき



た。むろん殺人を犯したわけでも、窃盗、詐欺、強盗など、社会的に許されざる犯罪を犯したわけでもない。けれど、自分を罪人と認識し、この問題の解決が与えられなければ救われないという気持ちになり、そしてイエス・キリストの十字架によって解決が与えられたと、信じるのが出来たのだ。

前者と後者、同じ身代わりなのにどこ

が違うのだろうか。罪は、つまるところ神への罪である。だから、身代わりはあくまでも、人の意志ではなく神の意志でなければならない。それを負うのは人間の子ではなく、神の子でなければならない。そうでなければ復活はない。復活がなければ救いはない。復活によって、それがわたしのための贖罪死であり、わたしのための復活であると、はじめて知るのだ。

罪の身代わりは、人間の限界を越えている。人間がそれをなそうとすれば、それは神を恐れない傲慢となる。人間ではなく、神から遣わされた救い主のみが身代わりになることができるのである。これは秘儀であり、その真理を教えてくれるのは聖霊である。

「彼が打たれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちは癒やされた」(イザヤ53:5)。

何という不合理。けれど不合理なるが故の何という真理。彼によってわたしも癒やされたのだと聖霊は教えてくれた。(重富)

教会の活動

高村神学生教職受任按手

2010年3月7日

赴任地は岡山教会 高松・松江も兼牧

北海道特別教区と
そこにつながる皆様

お久しぶりです。神学生の高村敏浩です。もうすでに花粉の飛散を敏感な目と鼻が感じている春の東京から、四旬節の挨拶を送ります。

昨日(2.23)、市ヶ谷で新任牧師としての辞令を受け取りました。赴任先は岡山教会です。兼牧で、四国の高松と山陰の松江の主任を務めるようになります(今年から牧師補の制度がなくなるので、三月いっぱいまでは牧師補ですが)。永吉先生とはすでにお話しできましたし、比較的近くには滝田先生もいらっしゃいますので、密かに心強く思っています。

関東以西に住むのは初めてです。こここのところずっと忙しく、さらには引越しを含めてイースターが終わるまではこの忙しさが続きそうなので不安と言えば不安ですが、一つ一つやっていきたいと思えます。

昨日全国常議員会で挨拶しました

が、本当に多くの人たちの支えによって、ここに立っています。特に北海道の皆さんには、いろいろと迷惑をかけながらも、温かく見守られ、育てられたという感謝の思いがあります。これからもお世話になるかと思いますが、どうぞよろしく願います。

改めて手紙などを書くつもりではありませんが、さしあたって、辞令受領と、赴任先の報告をさせていただきます。

この四旬節の季節にあって、皆さんの歩みが意味深いものでありますように、祈っています。

高村敏浩

PS 2月28日は神学校の夕べが、3月7日は按手式が、3月12日は私の恩師のAugsburg College教授のBradley Holt先生が四旬節の修養会を、いずれも東京教会で行ないます。もし東京にいらっしゃるなどでご都合が合って、お目にかかれることができれば幸いです。

地図を御覧頂きたい。高村牧師の牧会圏は、岡山教会を拠点に、高松教会と松江教会。岡山はもちろん岡山県の県庁所在地。桃太郎伝説で有名。松江は島根県の県庁所在地。ラフカディオハーンや宍道湖で有名な小京都。高松は香川県の県庁所在地。讃岐うどんや金比羅さんが有名。どの町も古式豊かな町だ。

岡山と高松は、瀬戸内海をまたいで走るしまなみ海道で結ばれている。岡山ー松江は、高速で中国山脈を越えて行く森の中の道。冬には雪も降る。どちらも道中は美しいが距離はある。広範囲だ。まずは体力をつけて、体をこわさないように頑張ってくれるように祈ろう。

最近の札幌教会での研修生の任地は、崔大凡牧師は、九州ルーテル学院チャプレン、池谷裕史牧師は、小田原教会、湯河原教会の2教会を兼牧している。それぞれに、主の忠実な僕としてしっかりやっていると、風の便りに聞いている。

めばえ幼稚園

大きく育て！卒園生

幼稚園から小学校に。子どもたちにとってこの一歩は、学生から社会人になるのにも匹敵する大きな一歩であるに違いない。幼稚園ではお母さんと手をつないで登園するのが普通だったけど、小学生になるとそうはいかない。小学生とはいえ学生なのだ。けれど、幼稚園児時代に養われ

た魂は、今からの人生に、見えないところで、どんなに大きな糧になっているのか。めばえ幼稚園で過ごした子どもたちは、あえて手前みそと承知しながら言いたい。とても幸せだったのだと。見えない糧を沢山いただいている。お誕生日会の歌を憶えただけでも大きな糧だ。

3月17日は第74回卒園式。洋々たる未来。めばえ幼稚園で学んだ一番大切なこと。それは神さまは、いつど



すみれ組は母子で素敵な瞬間を歌いました

んなときもそばにいて下さるということだ。これを今からの人生の中で、悲しいこと嬉しいことを通して、もっともっと実感して欲しい。もっともっと。

幼児虐待による死

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編 23:1

幼児殺し。その一つの事件が最近裁判員裁判で判決が出た。2008年の暮れに起こった事件で、加害者はどちらも35歳の夫婦。2歳の幼児を繰り返し虐待し、最後には、ポリ袋に入れ、ゴミ箱に閉じこめて殺してしまったという事件だ。父と子は義理の関係だったが、母と子は、実の関係であったという。なぜか虐待の様子などを母親はビデオに撮っていた。罪状は殺人罪ではなく監禁致死罪。ゴミ箱に放置していた結果死んだのだから殺人罪は成立しないらしい。だがまぎれもなく虐待死である。

虐待死にも様々な事情があって、ひとくくりには出来ないとされる。古くからのテーマである剥き出しの継子いじめの結果というものあれば、自分たちの安楽のために、幼児をただ邪魔と感じる精神の未熟から来る虐待もある。また、よく言われる子育てノイローゼの悲劇的な悪循環という場合もある。

孤独に子供を育てている母親の中では、自分が育児ノイローゼになり、子供を虐待死させてしまうかもしれないという恐怖を抱いている人も少なくないとも言われる。四六時中孤独に子供と向かい合う閉塞感の中で、理解しがたい感情が渦巻き、気がついてみると虐待らしいことをしていることもあるのだという。それには母親の生育過程の中で無意識に抱いていた怒りや悲しみが根にいたり、さらに自分でもまったく識らないでいる名状しがたいストレスの噴出もあったりするという。

自分に対する恐れ。それはだれもが秘かに持っているものかもしれない。そう言う場合には、一人で抱え込まないことが一番。そのためのセーフティネットも、今はかなり充実してきている。めばえ幼稚園でも、こっこクラ

ブや、めばえ広場を開設して、正規保育以外の子育て支援にも力を注いでいる。

人間として怖いのは、精神的な閉塞状態の中では、自分が何をしているのか分からなくなるということだ。精神的な閉塞状態というのは、愛の挫折から来る。愛の挫折というのはサディズム・マゾヒズムのことである。たとえば、最初に上げた事件の夫婦の場合も、心理学的には強依存と言われるような不可逆的な支配・被支配の関係があったはずである。その中で父親の継子に対する憎悪に、母親



も感染してしまった。サディズムは伝染する。自分の産んだ子を虐待するときに、その母親が、心の痛みをどれほど感じていたか。自分のしていることが分からないという状態の中では、虐待されている子の痛みを感じる感性も、麻痺する。むしろ、それで夫が喜ぶならという迎合心理に染められ、虐待の様子をビデオに撮るなどの、倒錯した趣向に陥っていた。

サディズム・マゾヒズムは、すべてが内向きに暴君と奴隷の関係で完結することを願う。それに邪魔が入ると、自分を見失う。その苛立ちはエスカレートし、自分が何をしているか分からなくなる。苛立ちの要因が幼児であれば、邪魔者として、虐待の対象になる。人間の罪というのが、「神のように振る舞おうとする傲慢」だと聖書が

指摘しているのは、まさにこのようなところで露出する。

育児ノイローゼによる虐待も、強い閉塞感の中で、母が絶対権力者となり、発作的にサディスティックな行為に走る行為だ。幼児の柔らかい肌をいたぶる倒錯した快感の描写が桐野夏生の小説にもあった。

ところで、聖書においても、幼児殺しは、重いテーマの一つである。3人の占星術の学者たちが、メシア誕生の予言を、時の王ヘロデに告げたとき、その子に会ったら教えてくれるように命じていた。学者はそれに応え

ず姿を消した。その結果、彼はベツレヘムと、その近所の2歳以下の子どもたちを、一人残らず殺させた。

王だからといって、広い視野を持ち、風通しの良い世界を持つわけではない。むしろ、王と臣下たちという閉塞関係は、裸の王様の物語が教えてくれているように、見える者も見

えなくしてしまう。一人の幼子の誕生に脅え、幼児殺しをやったのけたヘロデは、まさに、悪魔的なサディストとして「自分が何をしているか分からない」罪人の典型だ。

わたしたちの唯一の慰めは、どんなに悲しい死に方を強いられた幼子も、いや、そのような子こそ、天使たちは、間髪を入れずに迎え、キリストの身許に安らがせてくれているはずだという信仰である。

人間は、「自分が何をしているか分からない」で、どんな残酷なこともやってのける罪深い生き物だ。愛を見失えばサディストになる。けれど、必ず、自分が何をしたかを悟らされるときが来る。そのとき、十字架の意味も悟らされる。(重富)

<カーニバル>

カトリック国ではない日本でも2月14日の「聖ヴァレンタインの日」は、製菓会社のコマーシャルに煽られて、若い女性が多少とも関心がある男性にチョコレートを贈る日として慣習化されたようだ。チョコレートなど見たこともない戦時戦後まもない時期を記憶にとどめている世代の者は、このなじめない習慣を、日本が豊かになった証拠として、苦笑をもって受け止めるほかはない。

昔のフランスの農村では聖ヴァレンタインの祝日に村の若者たちの集會が、適齡期の男女の一覧表を作成してその中からカップルになりそうな組み合わせを籤などで決め、男性の候補者を「ヴァランタン(=ヴァレンタイン男)」、その相手となる女性候補者を「ヴァランティーヌ(=ヴァレンタイン女)」と呼んだ。この聖人の祝日に「ヴァレンタイン男」となった者は、一年間、相手の「ヴァレンタイン女」に花や菓子などの

ちょっとした贈り物をしたり、カードに添えた手紙や絵葉書を出したりする。そのうちに相互に恋愛関係に入り、婚約、結婚へと進む場合が多かった。類似の、聖ヴァレンタインが取り持った縁のケースは、イギリスにも見られた。聖ヴァレンタインの日は、このように若者たちの恋人選び、恋占いの日であるが、この聖人の祝日に関わる習俗は、カーニバルの祝祭の一環である。

英語のcarnivalはイタリア語のcarnevaleからの借用語彙で、その語

源については定かではないが、後期ラテン語の「carne肉よ、valeさよなら」に由来するとする説が、俗説かもしれないが、最も分かりやすい。チェコ語



ヨーロッパの民衆文化とキリスト キリスト教の中の民間信仰 (7) 栗原成郎

でもカーニバルをイタリア語の造語法を真似て「マソプスト(=maso肉よ、pustさよなら)」と言うぐらいだから。カーニバルはカトリック文化圏で四旬節の直前に行われる伝統的祝祭で、プロテスタントのキリスト教社会ではふつつ行われない。本来、カーニバルは教会行事ではなく、古代ギリシャのディオニュソス祭、古代ローマのバッカス祭に起源をもち、春分を契機とする「春迎え」の異教的宗教祭儀で、葡萄栽培と葡萄酒の守護神にその年の豊饒を祈願する、放埒な乱痴気騒ぎをとまなう祭りであった。その

奇怪な仮装行列と無軌道な乱舞を特徴とする陽気な馬鹿騒ぎは、地中海世界において民衆のあいだで継承され、中世の教会権力からしばしば非難・弾劾されながらも、根強く生き続けた。カトリック教会は、四十日の長い齋戒期に入る前の民衆のエネルギーの発散の機会を抑圧できず、カーニバルを四旬節直前の三日間あるいは一週間に期間を限定して認めるようになった。

四旬節は、「灰の水曜日」から復活祭前日までの、六つの日曜日を除く四十日間である。四旬節は、キリストの荒野での断食苦行を追体験し、最後の七日間を受難週として十字架にいたる主のご受難に心を合わせるよう教会暦で定められた精進の期間で

あるから、肉食は禁じられる。四旬節は二月にかかることが多く、春まだ遠い冬のさなかである。ヨーロッパの北国では、四十日間も肉食を断つのはつらい節制なので、四旬節直前の一週間は飽食が

許される。例えば、ポーランドでは灰の水曜日の前の木曜日を「肥満の木曜日」とよび、「ポンチキ」というジャム入りの大型ドーナツを腹いっぱい食べて、酷寒に備え、糖分と脂肪をたっぷり摂取する。俗信によれば、この日ポンチキを一つも食べなかった人は、その先の生活において運から見放されるという。灰の水曜日の前日は「ニシンの火曜日」といい、翌水曜日の明け方までどんちゃん騒ぎをした末に、最後にニシンを食べてから教会に告解に行き、額に懺悔の印として聖別された灰をつけてもらう。

日本福音ルーテル札幌教会 牧師 重富克彦 岡田 薫

札幌教会

URL <http://www.jelc.or.jp/sapporo>

札幌礼拝堂 064-0912 中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

札幌北礼拝堂 001-0031 北区北31条西4丁目1-5 011-726-3243

新札幌礼拝堂 004-0053 厚別区厚別中央3条6-1-5 011-891-5246